

2024 年度大学コンソーシアム京都

プロジェクト企画実践コース

プロジェクト報告書

株式会社インサイトハウス

落合倫世 高田光陽

2024年11月11日

プロジェクト活動報告

## 1. はじめに

私たちは、6月末から11月上旬まで株式会社インサイトハウスで「きょうのやましなさん」というプロジェクトを行った。このプロジェクト報告書においてはこの期間の活動をまとめ、報告する。

## 2. 概要

### 2-1 株式会社インサイトハウスについて

京都府京都市山科区で2つの店舗を持ち、事業を行う不動産会社である。TOMOSU GROUP（トモスグループ）に属する。TOMOSU GROUPとは理念として「人の前に明かりを灯す」、「『い』場所をつくる。」というグループミッションを抱え、「皆が主役になれる社会の実現へ。」というグループビジョンがあり、様々な事業を行う。展開事業はお弁当事業やネイルサロン事業など多岐に渡る。グループ理念をもとに株式会社インサイトハウスは「山科を“住みたいまち”ナンバーワンに。」という未来を目指し、地域とのつながりを重視したサービスを展開している。

### 2-2 プロジェクトについて

インターン生である大学生が山科を歩き、「人」に出会い、インタビューを行い、それをもとに山科の人や魅力を発信する。10年以上行われているものであり、SNSや紙媒体など発信を行っている。

### 2-3 プロジェクト目標

現状として山科の魅力が広まっていないというものがある。また株式会社インサイトハウスが地域とのつながりを重視しており、地域の方々と本プロジェクトとしてどうつながっていくかを想いとして抱えている。これらをもとに山科の魅力が伝わる製作物を作り、目にした方に山科の魅力の発見及び再認識してもらうことを目標として活動を行った。

また、インターン生のチーム目標として山科のインタビューを通して自分自身を知ることが設けた。理由として本プロジェクトに今年度参加した2名は自分自身がどういう人なのか、将来何をを目指すのかを明確に持っていなかった。株式会社インサイトハウスの担当者に、本プロジェクトではインタビュー活動を通し相手のことなども多く知る。相手を知ることが自分を知ることにもつながるということを説明していただき2人の考えの中にこの活動を通し、自分自身を知るきっかけに繋がるのではないかと考えたからである。

### 3. 活動内容

主な活動としてはインタビュー活動、成果物であるカレンダーの作成及び Instagram での発信を行った。活動記録については以下の通りである。

6月30日	事前訪問
7月中旬	プロジェクト方向決め
7月29日	太田様のコミュニケーション講座受講
8月上旬	インタビュー先へのアポ取り
8月中旬～9月中旬	インタビュー
9月中旬～9月下旬	カレンダーのコンセプト決め
10月上旬～10月中旬	カレンダー作成
10月中旬～10月下旬	カレンダー最終確認
11月上旬	カレンダー入稿
11月中旬～11月下旬（予定）	カレンダー配布

#### 3-1 インタビュー

本プロジェクトの主たる活動内容はインタビューである。インタビュー活動を行う前にインタビューを行う上で大切なコミュニケーションの取り方を株式会社インサイトハウスの担当者様に学んだ。具体的に学んだこととして聴くときの姿勢、相手に気持ちよく話してもらうために会話の中で心がけること、会話をする上で持っておくべきスタンスなどである。また、インタビューにおいては役割に徹した方がいいということも教えてもらった。そのためインタビューを行う際はインタビュアーと書記及び写真撮影の役割に分かれ、様々な方にインタビューを行って行く中で交互にその役割を担った。

またインタビューのアポ取りでは、3つの手段でアポ取りを行った。一つ目の電話では事前にどのようなことを相手に伝えるのかをまとめたものを作成し、株式会社インサイトハウスの担当者様に電話を避けた方がいい時間帯などを教えてもらい、私たちがどのようなのかを簡潔に伝えること、インタビューに関することを分かりやすく伝えることを意識しアポ取りを行った。残り2つの手段であるメール及びきょうのやましなさんの Instagram のメッセージではいかに私たちが伝えたいことを分かりやすく文章で伝えるかを意識し、メールの作成を行った。メールの作成を行う場合には改めて言葉の意味やメール上でのマナーを調べ、送信する前に確認を行った。

インタビューを行う前に株式会社インサイトハウスの担当者様のご厚意により車で山科を巡りながらこれまでの「きょうのやましなさん」でインタビューを行った方への訪問などを行いました。その訪問の最中に初めてのインタビューを行うことになった。そのインタビュー先は泉ハッピー食堂である。インタビュアーは落合が務め、書記は高田が行った。株式会社インサイトハウスの担当者様にインタビュー最中の写真を沢山撮影していただいた。

どのようなことを質問するのかの大まかな内容や順番は決まっていたが、相手に気持ちよく話してもらいながら私たちが質問する難しさを終始感じながらのインタビューになった。更にメモも相手の言葉を書き留めるのに必死になった。このようなことからインタビューに対し難しさを覚えた。しかし、この質問をしたら相手が答えやすそうだった、この質問は相手が答えにくそうだったなどを相手の表情や会話のテンポなどから感じることができ、次回以降のインタビューで心がけるきっかけになった。

二回目以降のインタビューでは回を重ねるごとにインタビュー相手の表情などを都度確認しながらメモができるようになったり、相手が言葉に詰まるような質問を急に問いかけてたりすることがなくなったりとより良いものになったと考える。

アポを取りインタビューを行った全ての場所でした質問がある。それはインタビュー相手が行われている活動を始めたきっかけ及び山科で活動をされている理由、活動の中で良かったこと及び大変だったこと、活動の展望、山科の魅力である。

9月8日に開催された「元気マルシェ」では来場されている方や出展されている方に突撃インタビューの形で多くの方にインタビューをした。突撃インタビューでは「山科ってどんなところですか?」と質問をした。「人なつっこい」などの山科の人の特徴を答える方、「関所」や「交通の便がいい」など山科の土地柄について答える方が多く、体験談なども踏まえ話してもらったことが多かった。

### 3-2 Instagramでの投稿

プロジェクトの方向決めを行っている最中に株式会社インサイトハウスの担当者様から「きょうのやましなさん」のInstagramのアカウントで投稿をしてほしいということ伝えられた。投稿は一つのインタビューが終わると早く投稿することを心掛けた。投稿内容はインタビュー時の写真と共にインタビューした方の紹介とお話いただいた内容を約250字程度の文章で記した。

### 3-3 カレンダー制作

プロジェクトの方向決めの段階で成果物は長期的に山科の魅力を感じ取ってほしい考えが私たちにあり、毎日目にするものの中からカレンダーにすることに決定した。カレンダーは月めくりで2025年版である。カレンダーにはインタビュー時の様子を掲載し、インタビューの中で印象に残った言葉を掲載した。また2~3ヵ月に一回インタビューの中で回答してもらった山科の魅力をまとめたページを設けた。またカレンダー内には株式会社インサイトハウスの担当者様にご提供いただいた写真や同じく株式会社インサイトハウスでインターンシップ生であった京都橘大学の学生が撮影したものも使用している。カレンダーは100部印刷した。配布についてはまだできていないが、今後行い最後まで山科の人と関わる楽しさを感じたいと考えている。

#### 4. 反省点

本プロジェクトの反省点は時間管理である。7月及び8月の予定は2人の予定を確認しながらいつでも確認できるようにしていた。更に一人が使用していたスケジュールアプリの共有カレンダーを用い、お互いのスケジュール把握及び本プロジェクトの時間管理を積極的に行った。しかし、9月以降はお互いのスケジュール把握や役割分担した作業のお互いの進捗が分からない状況が発生してしまった。そのためカレンダー作成に時間が思ったより時間がかかってしまい、予定に少し余裕があると考えスケジュールを変化させたが結局本来の予定よりも遅くなってしまったため反省点としてあげる。

#### 5. まとめ

本プロジェクトを通し、山科を知らなかった私たちが山科の魅力を多く感じることで、目標の1つである山科の魅力が伝わる製作物を作り、目にした方に山科の魅力の発見及び再認識してもらうことに対しては配布ができてない現状から目標達成とは言えないが、山科の魅力が伝わる制作物ができたのではないかと考える。約5ヵ月間という長いようで短いこの間に良かったこともあればあの時こうすればよかったのではないかというやりとりが何回かあった。しかしこのような経験から多くのことを学び、特に反省点として先述した時間管理に関しては重要性を改めて認識した。

約5ヵ月間、貴重な機会を設けてくださった受け入れ先の株式会社インサイトハウスの皆様及び関わってくださったインタビューにご協力いただいた皆様、コーディネーターの先生方、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の方々に心より感謝する。